

# 大洋州共通の後期中等教育試験 PSSC に関する考察

## —地域共通の試験制度の意義—

奥田久春

### 要 旨

大洋州7カ国では1989年から2013年まで地域共通の後期中等教育資格試験(PSSC)が行われていた。本稿では、この試験がなぜ地域で行われる必要があったのか、そこに地域試験としてどのような意義が見いだせるのかを考察するものである。PSSCに関わる歴史的な変遷については拙稿(本紀要前号)にて論じてきたが、更に国際的、制度的、教育評価としての観点から地域試験の意義を考察し、教育の質の保障について論じていく。

### はじめに

わが国では、高大接続においてセンター試験に代わる共通テストの導入が話題になっている。こうした試験で問われる能力には、21世紀型能力やコンピテンシーなどグローバルな影響が見られたとしても、日本独自(ナショナル、ローカル)の試験制度であることには変わりがない。しかしながら、世界には自国で認定された試験機関がなく、或いは十分に試験を実施できないため、主要国の試験機構が提供する試験(例えばイギリスのIGCSEやAレベルなど)を用いる国も多い。中には国際バカロレアのような国際的に評判の高い教育に賛同して導入する学校もある。

こうした国内的、国際的な試験制度以外に、地域(region)の複数国で共通の試験を実施するための機関がある。例えば、カリブ海地域のCXC(The Caribbean Examinations Council)や西アフリカ地域のWAEC(West African Examinations Council)、そして大洋州のSPBEA(South Pacific Board of Educational Assessment, 現EQAP)などである<sup>1</sup>。しかしながら、こうした地域機関による共通の試験制度はなぜ必要とされ、どのような役割があるのだろうか。

本稿では、これらの中でもSPBEAによって実施されていた地域共通の後期中等教育資格(Pacific Senior Secondary Certificate: PSSC)試験を取り上げ、地域共通の試験制度の役割について再検討していくことを目的としている。

筆者は拙稿(2018)においてPSSCの導入から廃止に至る変遷を辿りながら、その特徴を論じてきた<sup>2</sup>。即ち、PSSCはニュージーランドで1985年まで行われていたNZUE(New Zealand University Entrance)の代替として実施されるようになり、またNZSF(New Zealand Sixth Form)資格試験の影響も受けつつ、大洋州地域の資格試験制度として発展してきた経緯について、先行研究をもとに示した。また、PSSCが実施される中で、各国が試験を実施できる体制が整い、2013年に各国独自の試験に引き継がれたことを示した。この流れをローカル化への一連の歴史的変遷と見るならば、ニュージーランドへの依存というポストコロニアルな状況からの脱却、PSSCという地域としての(リージョナルな)ローカル化、そこから各国(ナショナル)のローカル化に繋がったということができよう。

しかしながら、各国独自の試験制度（ナショナルのローカル化）に至るまでに、なぜ地域共通の試験制度を経る必要があったのだろうか。その意味を考察するために、歴史的な側面だけでなく、国際的な位相、制度的な位置づけ、教育評価と質の保障という観点から再検討していきたい。

## 1. 国際的な位相

小島嶼国の教育に関する論考は1960年代から出現していたが、ここ10数年でも小規模性による様々な課題が指摘されてきた<sup>3</sup>。また、こうした国々の多くは植民地であったことや、また国際関係的にも周縁に位置することが多いことから、旧宗主国や主要国との関係から教育制度を見ていく必要がある。例えばBrayとAdam（2001）は小島嶼国であるモルディブの教育について、Armoveのグローバルとローカルという弁証法的議論<sup>4</sup>に準えて論究している。この中で従属理論では忘れられがちな相互作用という考えを提示している<sup>5</sup>。また、教育のグローバル化についての議論は極めて多様であるが、Spring（2008）はこれを①世界文化論、②世界システム論、③新植民地主義、④文化主義（culturalism）の4つの議論にまとめている。①で述べられる規範的モデルの拡散を批判的に捉える必要があり、②と③を踏まえた上で、④のような構成主義的にグローバルとローカルとの相互作用を考えていく必要があろう。例えばBacchus（2008）は、経済がグローバル化する社会においてはローカル性を重視しつつも、グローバルな教育の潮流に沿った政策を取り込む必要があることを指摘しているが、このように両者を2極化できないのが実態であろう。

こうした両者の相互作用を促す役割として、複数の小規模国による地域機関が担うのではないだろうか。例えば、90年代にはBray（1998）が共通の試験制度を実施している地域機関の意義と課題を述べている。その中で先行研究<sup>6</sup>を引用しながら「小規模国の経済的な課題の克服や、大きな存在に対しての交渉力を増大させることができる」としている。またSPBEAの地域機関としての役割については、Taufe'ulungaki（1993）を引用しながら<sup>7</sup>、次のように述べている。

- ・小規模国が何かを個々に実施するための専門性を有していなかったり、実施する余裕がなかったりする場合にサービスを受けることができる
- ・小規模国の人材に適切な経験や研修の機会を提供できる
- ・地域に関連のある価値や希望を反映した教育プログラム、サービス、実務提供を受けることができる
- ・教育への自信を高めることで、主要国や他地域への依存を減じることができる

これはSPBEAによるPSSCなどの実施を通じて、各国の教育行政官や教員に各種研修が提供されていたことについて、意義付けをしているものである。これらに加えて、先述の「大きな存在に対しての交渉力」、即ち主要国やグローバルな教育制度に対する相互作用といった側面にも焦点を当てていくことが必要である。

## 2. PSSC 参加国の中等教育試験制度

PSSCに参加していた国の中等教育での試験制度とPSSCの位置づけについては、表1のとおりである。拙稿（前掲）にて詳細を述べているが、本稿では、PSSC参加国の顔ぶれと中等教育試験制度の特徴、それら各学年の試験制度が自国で実施されているものか、SPBEAによる地域の試験を採用しているものかどうかを見ていきたい。

まず、この7カ国はどれも歴史的にイギリスおよびニュージーランドの影響の強い国である。ナウルはオーストラリアの影響が強いが、それ以外はイギリスやニュージーランドの中等教育試験制度の影響があったことを踏まえておく必要がある。またイギリスの影響があった国ではイギリスの国際的な試験である UCLES (University of Cambridge Local Examinations Syndicate) を継続するのではなく、PSSCに参加するようになっていった。これには距離や費用の面から効率的であったからであると言われている (Murtagh & Steer, 1998, Rees, 1985)。

ところで、オーストラリア、ニュージーランドを除くオセアニアの独立国のうち PSSC に参加していないミクロネシア連邦、マーシャル諸島、パラオはアメリカの影響が強く、教育制度もそれに倣っている。一方クック諸島とニウエについては歴史的にニュージーランドが施政国であったことかその試験を受験することが可能である。パプアニューギニアはオーストラリアの影響も強く、元から PSSC には参加していない。フィジーは後述するが独自に試験を実施できたため PSSC には参加しなかった。

次に Year11 (Form5) 段階での試験 (SC: School Certificate) は表1の各国 (キリバス、サモア、ソロモン諸島、ツバル、トンガ) では独自に行われている。この SC もニュージーランドの NZSC 試験が大洋州向けに (Pacific Option) 行われていたものである。これが2度の延長の末に1988年に廃止されるに伴って、各国で独自に行われるようになったのである。これに際して各国は NZSC に替わるニュージーランドの新たな試験制度への参加を模索したり、又は SPBEA が地域共通の試験を行うこと求めたりした。この中でフィジー (表1には PSSC 参加国ではないことから載せていない) では、自国の人材や能力を活用して実施することが可能と判断し、SC の試験を自国で実施した。このことが各国に刺激を与え、独自の試験が行われることとなり、また SPBEA は助言と技術的な支援をすることが期待されるようになったのである。こうしてトンガが1987年に早くも自国で試験を開始し、各国もそれに続いた (Murtagh & Steer, 1998, Rees, 1985)。

一方、PSSC は地域共通の Year12 (Form6) での後期中等教育試験であり、2013年以降に各国が独自に行うようになったものである。PSSC が導入された背景は拙稿 (前掲) にて述べたが、NZUE が廃止されたことによる。NZUE に依存していた各国が、内部評価 (IA: Internal Assessment) を伴うような試験を独自に開発・作成、実施することは困難な状況だったからであり、SPBEA に地域共通の Form6 の試験を開発することが求められたからである。

なお、Year13 において高等教育に向けた試験が行われるが<sup>8</sup>、これはニュージーランドの Year13 (Form7) の大学入学・奨学金試験に相当するものであり、地域共通の試験 (SPFSC: South Pacific Form Seventh Certificate) として2004年に開始された。現在もキリバス、サモア<sup>9</sup>、ソロモン諸島、ツバル、バヌアツにおいて行われている。

しかしながら、当然ここで疑問が出てくる。Year11 (Form5) での SC はそのまま各国で行われたのに対し、なぜ Year12 での試験は地域の PSSC として実施されたのであろうか。同様に Year13 では、なぜ現在も地域共通の試験が実施されているのだろう。

PSSC には、各国が独自に実施することが困難な IA が採用されていたためということだが、実は Year11 の SC にも IA は含まれていた。即ち両者の違いは IA の有無によるものではない。IA はもともと1970年代にニュージーランドが試験全般、つまり NZSC にも導入しており、各国の SC にも踏襲されているのである。

これについては、PSSC が NZUE という大学入学のための試験の代替であり、また Year13 に繋げるための試験であったことから、SC に比べて相応の質の保障が求められたと考えることができる。また Year13 の SPFSC はサモアでいえば大学予科 (Foundation Year) であるなど、制度的な課題や高大接続

のための、より高度な質の保障が求められたからであろう。

表 1：各国の中等教育試験制度

(2012 年)

	Y11(F5)	Y12(F6)	Y13(F7)
キリバス	KNC	PSSC	SPFSC 等
サモア *	SSC(Y12)	PSSC(Y13)	NUS FY
ソロモン	SISC	PSSC	SPFSC 等
ツバル	TSC	PSSC	SPFSC 等
トンガ	ToSC	PSSC	TNFSC 等
ナウル		PSSC	
バヌアツ **		PSSC	SPFSC 等

\* サモアは 5 歳から小学校に入学するため、他国の学齢・学年と一年ずれる。

\*\* バヌアツは英語系とフランス語系の教育制度に分かれるため、それぞれの試験制度も両言語で異なる。ここでは英語系を示している。

F: Form, KNC: Kiribati National Certificate, NUS FY: National University of Samoa Foundation Year, SISC: Solomon Islands School Certificate, SPFSC: South Pacific Form Seven Certificate, SSC: Samoa School Certificate, TNFSC: Tonga National Form Seven Certificate, ToSC: Tonga School Certificate, TSC: Tuvalu School Certificate, Y: Year 出所) 筆者作成

こうした PSSC は、途中から参加したツバルやナウルを含め 7 カ国において着実に実施されてきた。トンガは PSSC が廃止される前年の 2012 年にいち早く独自の試験に切り替えたが、いずれの国でも受験者数はほぼ年ごとに増加してきた (表 2)。これは各国の中等教育が整備されたことで進学者が増えたからであり、それに PSSC が対応できていたことを意味しているといえよう。

表 2. PSSC の受験者数

(単位：人)

	1994 年	2002 年	2010 年	2012 年
キリバス	96	429	1,237	1,122
サモア	690	1,261	1,928	1,978
ソロモン諸島	150	558	2,064	2,307
ツバル	-	84	93	101
トンガ	813	1,032	1,533	-
ナウル	-	7	36	38
バヌアツ	186	307	761	679
計	1,935	3,678	7,652	6,225

出典：1995 年以降毎年の Report on PSSC をもとに筆者作成

### 3. PSSC における IA —教育評価と質の保障

前述のとおり PSSC には IA が採用されており、全国統一の筆記試験による評価 (External Assessment) とともに資格試験の構成要素となっているのが特徴である。

この IA とは、授業やコースワークなどで課されるリサーチプロジェクトやレポートなどのパフォーマンス課題により、教科に関連する技能を一定の基準に沿って学内にて教員などが評価を行うものである。もともとニュージーランドにおいて 1970 年代初めに新たな教育評価の方法として議論され、1974 年以降 NZUE や NZSF において用いられてきた。

PSSC においても 1989 年の開始当初から IA が導入され<sup>10</sup>、英語、化学、物理、生物、地理、歴史から始められた<sup>11</sup>。1995 年以降徐々に農業など他の教科でも用いられるようになった。また IA の点数は筆記試験と合わせて得点調整を行った上で資格試験の成績とされていた。

IA で与えられる課題は診断的や形式的ではなく総括的に評価される。これらは SPBEA 共通課題以外に、教員が独自に出す課題もある。これについては内容、評価計画を事前に SPBEA に提出し、承認を受けることとなっていた。その際に助言や指導を受けることもできた (Macpherson, 1993)。

IA は各教員が評価を行うため、教員間や学校間などでのモデレーションが必要である。特に PSSC は複数国で実施されるため国同士のモデレーションも必要となる。モデレーションとは評価者によって主観的で不公正な評価となることを避け、信頼性 (再現性、客観性) を高めるために評価方法の確認と調整を行うことである。PSSC では生徒のレポートなどの作品とその採点を抽出して国内のモデレーターだけでなく SPBEA 本部に送って国外のモデレーターの確認を取ることとなっていた。また SPBEA から担当官が学校を訪問してモデレーションが行われることもあった (各教科の Prescription より)。

表 3 は PSSC の筆記試験と IA との比率、また IA の構成とそれぞれの割合を示したものである。これを見ると、筆記試験と IA はほぼ 6 : 4 で構成されることとなっている。サモア語を除いた語学系と農業は 5 : 5、数学と地理は 7 : 3 だが、コンピュータなど実技系の教科はむしろ IA の比率が高くなっている<sup>12</sup>。これら比率を 5:5 とした形で合算して得点調整を行い公開することで、IA における教員による採点の寛大化傾向を考慮したモデレーションを行っていた (表 4)。

このように、生徒に課題を与え評価するプロセスは、地域共通の各教科の Prescription に明示されていた。また、こうしたモデレーションによって、教員の指導や評価の質の向上が図られるとともに、地域としての質の保障にも繋がっていたといえよう。

また SPBEA はニュージーランドの資格認定機構である NZQA (New Zealand Qualification Authority) やオーストラリアの教育開発研究機関である ACER (Australian Centre for Educational Research)、また UNESCO との協力体制にあることから<sup>13</sup>、IA を含めた評価は国際的に認証されていたことがうかがえる。

### おわりに PSSC の意義

このように PSSC の特徴から、地域共通の試験という意味を探ってきた。PSSC が後期中等教育の生徒の資格試験としてだけではなく、PSSC の実施を通じて IA などの研修機能を有していたことは述べたとおりである。SPBEA は教員や教育行政官向けの研修プログラム、教材開発や現場視察を通じて教員の質の向上が図られたのである。

表3：PSSC 各教科と評価課題

教科	試験	IA	IA 評価課題
英語	50%	50%	共通評価課題－創作（10%）、学校基盤評価（口述 20%、2 課目選択：研究、実用文の書き方、文芸、メディア各 10%）
サモア語	60%	40%	書く（8%）、パフォーマンス・話す活動（12%）、研究（20%）
トンガ語	50%	50%	話す（15%）、聞く（10%）、研究（15%）、文芸（10%）
フランス語	50%	50%	話す（30%）、聞く（10%）、研究プロジェクト（10%）
農業	50%	50%	発展的実習調査（17.5%）、研究（12.5%）、短期実習調査（10%）、実技（10%）
生物	60%	40%	実験レポート（20%）、調査学習（10%）、その他課題（6%）、実習テスト（4%）
化学	60%	40%	共通評価課題（8%）、発展的調査プロジェクト（16%）、実習レポート（12%）、その他課題（4%）
物理	60%	40%	実習実験・レポート（24%）、技能課題（8%）、記述課題（4%）、その他課題（4%）
数学	70%	30%	小研究課題（10%）、共通評価課題（10%）、教員設定課題（10%）
地理	70%	30%	実習（10%）、フィールドワーク調査（20%）
歴史	60%	40%*	研究プロジェクト（17%）、文献活用（4.6%）、視覚資料活用（4.6%）、口述説明の調査（4.6%）、史跡調査（4.6%）、人工遺物の検証（4.6%）
経済	60%	40%	調査プロジェクト（20%）、地域経済で働く経済学概念の調査（5%）、地域経済問題について視覚による発表（5%）、経済データの提示・分析（5%）、経済問題・出来事に関する文献の活用（5%）
会計	60%	40%	分析・解釈・レポート（20%）、簿記（10%）、会計システム事例研究（5%）、固定資産目録作成（5%）
デザイン技術	40%	60%	指定プロジェクト（20%）、評価プロジェクト（10%）、個別プロジェクト（30%）
コンピュータ	30%	70%	共通評価課題（30%）、観察（10%）、教員設定課題（30%）

\*Prescription には分量として提示されていたものを筆者がパーセントに換算。なお、1996 年に開発学、2000 年に日本語、2002 年に美術（視覚芸術）、スポーツ・フィットネス（保健体育）、2009 年に音楽が導入されているが、Prescription を入手できず、掲載していない<sup>14</sup>。

出所）SPBEA による PSSC 各教科 Prescription をもとに筆者作成。

表4. PSSC 教科と年度別の平均点

	1995		2000		2004			1995		2000		2004	
	IA	SC	IA	SC	IA	SC		IA	SC	IA	SC	IA	SC
生物	55.8	51.6	58.7	52.2	41.8	47.6	コンピューター			43.4	52.5	23.1	58.5
化学	58.7	52.9	58.2	54.4	39.8	47.2	開発学			44.1	49.4	34.0	46.7
物理	59.2	54.0	59.2	55.9	32.9	48.9	経済			59.5	51.6	35.3	47.7
農業	62.4	45.0	64.3	48.6	32.0	58.4	会計			65.1	50.7	47.4	47.4
歴史	57.7	50.8	59.0	50.6	39.2	47.7	数学			34.1	49.4	23.0	48.8
地理	48.0	49.2	46.7	48.5	17.5	48.4	日本語			24.4	58.6	23.0	47.6
英語	61.1	50.3	59.0	49.5	34.5	48.2	デザイン技術1					65.0	56.3
仏語	63.2	52.4	61.8	49.8	52.9	42.9	デザイン技術2					63.0	57.3
サモア語	43.8	43.4	68.8	39.6	35.9	50.0	トンガ語					48.4	52.6

SC: Scaled（筆記試験と合算してから調整した平均点）、IA の数値は得点調整（Scaling）されていない平均点。出所）1995 年以降毎年の Report on PSSC をもとに筆者作成。

しかしそれだけではなく、PSSC はもともとニュージーランドの大学入学のための試験（NZUE）の代替であったことや、IA を伴った Form 6 レベルの試験として相応の質が求められてきた。そのため筆記試験とともに地域共通の IA の内容が設定され、国を超えたモデレーションが行われることで信頼性を高めてきた。その中で質を保障してきたと考えられる。小規模国が教育の質を国際的に認証させるためには、地域共通の試験を行うことが有効だったからである。そこに地域共通試験としての PSSC の意義を見出すことができよう。

本研究は科学研究費補助金（基盤研究（C）（一般）課題番号 17K04682）の研究成果の一部である。

## 【参考文献】

- Bray, M. (1998) *Regional Examinations Councils and Geopolitical Change: Commonality, Diversity, and Lessons from Experience*. International Journal of Educational Development, Vol. 18, No. 6, pp.473-486.
- Bray, M. and Adam K. (2001) *The dialectic of the international and the national: secondary school examinations in Maldives*. International Journal of Educational Development, Vol. 21, pp.231-244.
- Bacchus, M. K. (2008) *The education challenges facing small nation states in the increasingly comparative global economy of the twenty-first century*. Comparative Education, Vol. 44, No. 2, pp.127-145.
- Livingstone, I. D. (1985) *Withdrawal of the New Zealand university entrance and implications for the South Pacific*. Directions: Journal of Educational Studies no.15, vol.7, no.2, pp. 82-89.
- Macpherson, C. (1993) *Curriculum change in the Pacific Senior Secondary Certificate*. Pacific Curriculum Network vol.2, no.1, pp. 9-11.
- Murtagh, M. and Steer, M. (1998) *New Zealand Examining Bodies*. M. Bray and L. Steward (eds.) Examination Systems in Small States: Comparative Perspectives on Policies, Models and Operations. The Commonwealth Secretariat, London, pp.207-217,
- Rees, T. (1985) *The South Pacific Board for Educational Assessment and National Fifth Form Certificates*. A paper based on an address to the Suva Institute for Educational Research, 9 July 1975.
- Rees, T. and Singh, G. (1998) *South Pacific Board for Educational Assessment*, M. Bray and L. Steward (eds.) Examination Systems in Small States: Comparative Perspectives on Policies, Models and Operations. The Commonwealth Secretariat, London, pp.162-180.
- Spring, J. (2008) *Research on Globalization and Education*. Review of Educational Research. Vol. 78, No. 2, pp.330-363.

## SPBEA 資料

PSSC Prescription: Accounting (2003), Agriculture (2004), Biology (2002), Chemistry (1999), Computer Studies (2007), Design Technology (2008), Economics (2003), English (2007), French (2000), gagana Samoa (2008), Geography (2006), History (2001), Mathematics (2008), Physics (2001), tala 'o Tonga (2008).

South Pacific Board for Educational Assessment, Report on the Pacific Senior Secondary Certificate 1995.

同 1996～2012（2007 を除く）までの Report.

## 註

- 1 Bray (1998) がそれぞれの特徴を述べている。
- 2 拙稿（2018）「大洋州における中等教育試験制度の変遷－PSSC の廃止に着目して－」『三重大学教養教育機構研究紀要』第 3 号, pp.25-34.

- 3 例えば Crossley, M. and Holmes, K. (1999) *Educational Development in the Small States of the Commonwealth: Retrospect and Prospect*, Commonwealth Secretariat, London. など
- 4 Arnove, R. F., and Torres, C. A. (Eds.) (1999) *Comparative Education: The Dialectic of the Global and the Local*. Rowman and Littlefield, Lanham, MD.
- 5 この中で、モルディブが位置するインド洋には SPBEA や CXC のような地域機関による試験制度が存在せず、それゆえにモルディブはイギリスの EDEXEL の試験制度が用いられるとしている点は逆説的に地域機関の意味を考察する上で参考となる。
- 6 例えば Georges, P. T. (Chairman) (1985) *Vulnerability: Small States in the Global Society*. The Commonwealth Secretariat, London. など.
- 7 Taufe'ulungaki, A. (1993) *Educational provision and operation: regional dimensions in the South Pacific*. Bacchus, K. and Brock, C. (Eds.) *Small States of the Commonwealth*. The Commonwealth Secretariat, London, pp. 120-141.
- 8 オーストラリアの影響の強いナウルを除き、これらの国々は初・中等教育併せて 13 年の就学期間である。但しサモアは他国と 1 学年ずれるため同じ 13 年間でも Form7 の学年は存在せず、サモア国立大学の大学予科 (Foundation Year) が相当する。
- 9 サモアは上記の大学予科にて資格を取得するが、それとは別に私立校が参加している。
- 10 SPBEA の 1995 年からの Report on PSSC によると、IA 自体は 1989 年の開始当初から導入されていたことが分かった。しかし 1993 年に改良が行われたようであり、そのことが Macpherson (1993, p.10) の記述にあったため、それをもって拙稿 (2018, p.29) では IA の導入を 1993 年としていた。このため拙稿を訂正しお詫びします。
- 11 同様に地理と歴史も 1989 年から IA を導入していたことが判明した。このため拙稿 (前掲, p.29) を訂正しお詫びします。
- 12 例えばニュージーランドの実技系教科での Unit Standard における IA の影響を PSSC の「コンピュータ」の教科に見ることもできる (Murtagh, M. and Steer, M., 1998)。
- 13 EQAP (旧 SPBEA) の HP (<http://www.eqap.org.fj>) より 2018 年 11 月 30 日閲覧。
- 14 同様に、1995 年の Report on PSSC によると開発学などの教科が PSSC に存在したことが判明した。但し Prescription が発見できなかったことから、拙稿 (前掲, p.30) には「開発学という教科は PSSC にはなかった」が、PSSC 廃止後に、サモアなど各国で教えられていた教科として独自に試験が行われるようになったように論述した。従ってこれは誤りであるため、訂正し、お詫びします。



# **A Study of Pacific Senior Secondary Certificate: PSSC**

– Significance of a regional examination –

Hisaharu OKUDA

## **Abstract**

The Pacific Senior Secondary Certificate (PSSC) was implemented in seven countries, namely, Kiribati, Nauru, Solomon Islands, Samoa, Tonga, Tuvalu, and Vanuatu from 1989 and abolished in 2013. Since then, the examination in the Year12 (Form 6) have been implemented in each country. This article will discuss why the PSSC was needed as a regional examination and what kind of significance can be found in the regional function, which is not a state-driven or a metropolitan examination. The author has previously studied the historical changing of the secondary education certificate and the PSSC. This article will try to discuss further from the viewpoints of international relation, educational system, and educational assessment and lead to a conclusion, that is, the educational quality assurance as the significance of a regional examination.